

# 河川整備基本方針の変更にかかる 地域のご意見

令和3年6月25日

国土交通省 水管理・国土保全局

- 河川整備基本方針の見直しにあたっては、気候変動を踏まえた目標設定等を検討することと合わせて、流域治水の視点から、あらゆる関係者が協働してハード・ソフト一体となった対策を検討することが重要である。
- そこで、治水対策やまちづくりにおける地域の取り組みや実情を把握するため、新宮川水系の首長より、河川整備基本方針の見直しにあたってのご意見を伺った。

## <田岡 新宮市長\*からのご意見>

※熊野川改修促進期成同盟会 会長  
 ※熊野川流域対策連合会 会長

- 近年のゲリラ豪雨や大型台風など、水災害が危惧される中、新宮川水系にある11基のダムはすべて利水専用ダムである。容量が大きいダムに治水容量を設け、統合運用も含めて、ダムによる洪水調節をお願いしたい。
- 過去より大水害を経験していることから、避難所の充実や市民への啓発に力を入れ、一人の犠牲者も出さないことを意識している。まずは避難対策で、それに加えて国・県・市町で協力してハード対策に取り組む必要がある。
- 上流、中流、下流域と流域内でも課題は異なる部分はあるが、流域治水として流域全体の結束を固くし、住民の命・財産を守るために治水対策に取り組む。

## <西田 紀宝町長\*からのご意見>

※熊野川改修促進期成同盟会 副会長  
 ※熊野川流域対策連合会 副会長

- 新宮川水系には発電ダムが多くあるため、ダムのネットワークや連携を上手く行い、洪水の調節能力を高めていただきたい。
- 人の命を守ることが一番重要と考えており、ハード整備だけでなく、ソフト対策を用いて、いかに被害を減らすかを意識している。輪中堤や掘削土を活用した高台整備、地区ごとのタイムイラン策定などに取り組んでいる。

平成23年9月洪水による浸水状況



